

# 非定型データのコーディング・システムと その利用

平成8年度～10年度

文部省科学研究費補助金（基盤研究(A)(1)）

研究成果報告書

研究題目

「社会調査における自由回答データ収集・分析システムの開発」

課題番号      0 8 5 5 1 0 0 3

研究代表者    大阪大学人間科学部

助教授        川端 亮

平成 1 1 年 3 月

## はじめに (川端亮)

本報告書は、平成 8 ~ 10 年度文部省科学研究費補助金 (基盤研究 (A) (1)) 「社会調査における自由回答データ収集・分析システムの開発」 (課題番号: 00214677) の研究成果をとりまとめたものである。平成 7 年秋の申請時には、質問紙における自由回答の収集、コーディング、分析を主な研究課題と考えていたため上記の研究課題で応募したが、研究を進める過程で、自由回答データのみならず普通の文章をデータ化し、コーディング、分析する方法についても一定の成果を上げることができたため、本報告書のタイトルは、『非定型データのコーディング・システムとその利用』とした。

この研究を始めて以降、英文を見ると、単語と単語の間にある空白がすばらしく輝いて見える。それに対して、日本語の文章は、切れ目のない文字の羅列にすぎない。それが、私たちに多大な時間と労力を費やさせた源なのであった。句読点しかない文章の中からいかにして抽出するに値する文字列を見つけだすかが、本研究の最大のポイントである。2 つのコンピュータコーディングプログラムといくつかのその利用例を掲げたにすぎない報告書ではあるが、読まれる方の想像力によって、新たな研究への 1 つの足がかりを提供できるのではないかと思っている。

本調査研究がこのような形にまとめられたのは、ご協力いただいた多くの人々のおかげである。第一に、調査対象者としてわれわれの調査研究にご協力いただいた長野県諏訪郡原村の方々、宗教教団真如苑の霊能者の方々に、心からお礼を申し上げたい。また、調査を実施するにあたっては、原村の柳平二四雄さん、真如苑社会交流部の西川勢二さん、西浦恭弘さんにはいろいろと便宜を図っていただいた。原村の調査では、菅康弘さん (甲南大学文学部助教授)、遠藤竜馬さん (大阪大学人間科学部助手)、八尾尚美さん (光華女子大学職員) の手助けをいただき、光華女子大学文学部人間関係学科の学生諸姉に調査員としてご協力いただいた。さらに膨大な量の文書データの入力においては、多くの学生にご協力をいただいたが、古川岳志さん、内海博文さん (大阪大学大学院人間科学研究科院生)、西村由美さん、三木良子さん、宮腰昌記さん、山口巨さん (当時光華女子大学文学部人間関係学科学学生) の 6 名には、とくにお世話になった。彼ら・彼女たちの熱意と根気がなければ、分析に値するデータの入りはできなかった。彼女たちによく尋ねられたものである。「澄w)・u謳か、いったいいつになったらこれは発表されるの?」と。これが多くのご協力いただいた方々の率直なお気持ちであろう。それにやっとお応えし、感謝の気持ちを表したというよりはむしろ、得難いデータをまだ十分に生かし切れていない後悔の方が大きい。今後もデータの分析を続け、この研究を継続していくことで、ご協力に対するさらなる感謝を表していきたいと思っている。

1 9 9 9 年 3 月

研究代表者 川端 亮

【研究組織】

- 研究代表者： 川端 亮 (大阪大学人間科学部助教授)
- 研究分担者： 谷口 敏夫 (光華女子大学文学部助教授)
- 佐藤 裕 (富山大学人文学部助教授)
- 尾嶋 史章 (同志社大学文学部助教授)
- 太郎丸 博 (光華女子大学文学部講師)
- 橋本 満 (大阪大学人間科学部教授)
- 秋庭 裕 (大阪女子大学学芸学部助教授)
- 研究協力者： 岡尾 将秀 (大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程)

**【研究経費】**

平成8年度 5,800千円

平成9年度 5,000千円

平成10年度 1,600千円

計 12,400千円